

地域住民との敬老の集いの開催

地域の皆様に「えびな南高齢者施設があって良かった！」と心から思っていただけるようになることを目標に、事業を行っている。海老名市主催の『敬老の集い』が各地域の自治会主催の事業へと変更された際に、地域の高齢者と施設入所者が一同に会する『杉久保ふれあい敬老の集い』の開催を企画、実施した。地域の高齢者と施設入所者間のコミュニケーションの場ともなり、えびな南高齢者施設の地域との一体化を実現した。

社会福祉法人 **中心会** 〒243-0414 神奈川県海老名市杉久保2271-7
TEL : 046-238-7681 / FAX : 046-238-7682

◆ 法人の概要

法人設立年：昭和28年

経営施設、事業（数）：5施設

経営施設、事業（種別）：

特別養護老人ホーム3箇所、訪問介護2箇所、短期入所3箇所、通所介護3箇所、養護老人ホーム1箇所、養護短期入所1箇所、訪問入浴1箇所、居宅介護支援1箇所、地域包括支援2箇所、生活介護1箇所、児童養護施設1箇所

◆ 法人の理念・経営方針

私たちは

- 私たちが活動する地域社会において、
- 自分や自分の大切な人が抱える心身の障害や生活環境上の問題によって、様々な「不自由」「生きにくさ」を現に経験し、または経験するだろうリスクを有する人々に対して、
- 適切な専門性の担保された養護、介護、及びこれに関連する諸サービスを提供することを通じて、
- 誰もが自分の存在に誇りをもち、生きる喜びを享受するとともに、自分の家族や隣人の存在を素直に喜ぶことができる社会づくりに貢献します。

◆ 実施施設の概要

施設名：えびな南高齢者施設

施設種別：特別養護老人ホーム

活動開始年：平成19年5月

活動の頻度・時間：年1回、1回あたり3時間

活動の対象者：杉久保地区住民、えびな南高齢者施設入所者

活動実施の背景、実施にいたった理由

えびな南高齢者施設は、海老名市の南部に位置する杉久保地区にある複合型老人施設である。これまで、地域に根ざした社会福祉法人であるためには何ができるのか、何をすべきかを常に模索してきた。高齢者施設として、近所のお年寄りにサービスを利用していただくといった当たり前のことだけではなく、施設の持つノウハウやファシリティー（設備）といった資源を活用し、地域の皆様が「杉久保地区にえびな南高齢者施設があって良かった！」と心から思っていただけるようになることを目標に、事業を行ってきた。海老名市では、市が主催して『海老名市敬老の集い』を開催してきたが、平成18年より市の事業から各地域の自治会主催の事業へと変更がなされた。変更当初の平成18年、えびな南高齢者施設が所在する杉久保自治会においては、地域の高齢者に対しての敬老の集いは地区のコミュニティセンターで開催、施設入所者に対しての集いはその施設内での開催と、別々に開催される結果となった。当施設としては、「これでは施設の持っているノウハウやファシリティー（設備）といった資源を活用してもらえないではないか？」、「地域の方々に『杉久保地区にえびな南高齢者施設があって良かった！』と心から思ってもらえないのではないか？」といった疑問が残った。

実施内容

平成19年5月に杉久保自治会長に対し、今年度（平成19年度）はえびな南高齢者施設の地域交流室（145.04m²）を会場とし、地域の高齢者と施設入所者とが一同に会して敬老の集いを開催できないかと提案をした。当施設の考えが自治会にも伝わり、9月16日に『杉久保ふれあい敬老の集い』として開催することとなった。

実施内容は、地域の方々による民謡やカラオケ、新日本舞踏、フラダンスの披露であった。和やかな雰囲気の中、地域の高齢者と施設入所者間でのコミュニケーションの場ともなり、まさに、えびな南高齢者施設が地域と一体化をした瞬間

でもあった。参加者も総勢122名（地域住民86名、施設利用者36名）と、大規模な集いとなった。

参加者からも「楽しかった」「元気が出た」「最近、行き来の遠のいた知人と会えて嬉しかった」とのお言葉をいただき、大成功のうちに幕を降ろすことができた。

活動効果

参加者からの喜びの声は上述の通りで、とても楽しんでいただけた。地域にとっても今回の敬老の集いの開催をきっかけに「えびな南高齢者施設があって良かった」「えびな南高齢者施設も地域の仲間である」と感じていただくことができた。施設の職員についても同様で、今までは施設の中で生活が完結してしまうことが当たり前になってしまっていた部分を、「もっと他にも地域との関わりはできないか」、「もっと役に立つことはできないか」を考えるようになり、言葉だけではなく、行動として「地域に根ざした社会福祉法人」としての取り組み姿勢が持てる職員が大勢誕生した。

地域住民と施設利用者という壁を取り崩すことができたことは私たちえびな南高齢者施設にとっても、杉久保地区住民ひいては海老名市民にとっても、今後の生活を送るにあたって、有意義な行事であったかと考えている。

今後の課題

当初はリフト付の施設送迎車を活用して会場までの送迎を担う予定であったが、利用する地域住民はいなかった。今回は生活相談員が窓口となり、活動を行ったが、今後は地域包括支援センター職員やケアマネージャー、ヘルパーといった日常的に地域に出向くことが多い職員を活用しながら、PRをしていくことで多くの方にえびな南高齢者施設の姿勢と取り組みを知っていただくようにしたい。

また、何かのイベントの前のみならず、毎月開催されている自治会にも積極的に参加をすることで、地域住民とのコミュニケーションを図り、日常的に、えびな南高齢者施設が杉久保地区の“住民”であることを意識していただけるようにしたい。お互いに育て、育てられの環境を作り上げていくことが求められる。

施設内においても、日常的に、当施設（入所者、職員）が地域住民の一人であることを謳うことで、今まで以上に地域に開かれた社会福祉法人を目指していきたい。

